

# 部位別死亡数1位の肺がん

やまなし

## 医療最前線

県立中央病院から

山梨県内のがん患者の部位別死亡数で1位(男性1位、女性3位)を占める肺がん。初期は自覚症状を伴わないため、発見したときにはすでに進行し、手術を行えないケースが多い。県立中央病院は来年度から、早期発見のための取り組みとともに、難しい症例も積極的に手術で治す肺がん治療に力を入れていく。

「肺がんの根治には手術で病巣を取り切るのが最善の道」。4月から同病院に赴任する後藤太一郎医師はこう話す。だが肺がんが見つかったときに脳や骨への遠隔転移を伴わず、手術可能な人は3〜4割というのが実



後藤太一郎医師

## 難症例も手術で根治めざす

《 64 》

情だ。

後藤医師は、できるだけ早い段階でがんを見つけた重要性を強調。エックス線検査では限界がある検診に「市町村が独自にCT(コンピュータ断層撮影)検査を導入している例もある」として、山梨県や市町村にも働きかけていく。喫煙者への禁煙指導や啓発活動にも力を注ぐ考えだ。

で広がった状態に対し、血管や気管支の一部を切除して再建する難しい術式(血管形成術、気管支形成術)にも取り組んできた。胸壁、横隔膜、心臓、大動脈などのがんが広がり、通常の肺葉切除術では取り切れない場合、周囲の臓器を含めて広範囲をいっぺんに切除する「拡大合併切除術」も得意とする。

一方、早期の小型肺がんでは術後の肺機能の温存や手術負担の軽減を目指し、がんがある部分のみを切除する「縮小手術」もある。中でも肺葉をさらに細かいブロックに分けて切除する区域切除術は肺葉切除術に比べて熟練を要するが、後藤医師は慶応大病院で300例以上の手術を経験。慎重に適応を判断し、採用していくという。

豊富な手術経験を生かし、これまで手術できずに化学療法や放射線治療を選択してきた例でも、がんの進行度や患者の状態に合わせて、積極的に手術で治す方法を探っていく。後藤医師は「少しでも山梨の医療レベルが上がり、県民の役に立てるよう努めたい」と話している。

第2、4木曜日に掲載します

